

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173200559		
法人名	株式会社 彩香らんど		
事業所名	グループホーム田舎の家		
所在地	埼玉県比企郡小川町青山201-1		
自己評価作成日	令和4年1月17日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和4年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は緑に囲まれた静かな環境にあり散歩など外出に適している。気候の良い日は玄関先で利用者の皆様と外気浴をしながら散歩や野菜作りを行い、コロナ禍の制限はあるが少しでも施設の外に出ていただける事を大切にしている。また認知症の方にとっての環境の重要性を職員一同にしっかりと理解してもらい、静かにゆっくり穏やかに接する事を徹底し、グループホームの特性を活かして寄り添い、本人のできる事を多く見つけ支援していき、家庭的な環境の中で役割を持った豊かな生活を送れるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念を基に、職員は忙しくても利用者のペースと一緒に行動すること、発信の弱い利用者にも目を向けることで、落ち着いた笑顔で暮らしていただける生活の場が作られている。「家族アンケート」や「介護記録」の情報を職員が共有することで、同じ方向を向いた支援に繋がっている。  
 ・運営推進会議は、コロナ禍での開催は困難なので、事業所と利用者の状況を書面にし、質問や意見を聴くためのアンケートと共にメンバーに送付することで代替され、意見や情報は運営に活かされている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、「スタッフ介護記録」を基にケアマネジャーと職員によるケア会議が行われ、出席できない職員の情報も共有した介護計画が作成されていること、火災と水害それぞれの訓練が行われ、実際に避難するなど実践的な内容であることから、目標の達成が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を皆が見えるところに掲げ理念を共有し実践に努めている。	「静かに・ゆっくり・穏やかに」の理念を基に、職員はどんなに忙しくても落ち着いて、利用者のペースと一緒に行動することと、発信力の弱い利用者にも目を向けることを忘れずに、落ち着いて笑顔で暮らせる生活の場が作られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり積極的な交流はない。ご近所の方には挨拶や軽く会話する程度に留まっている。	コロナ禍で、オレンジカフェや地域清掃への参加、ボランティアの受け入れ等は出来なくなったが、近隣の方々から野菜や花をいただいたり、散歩時に挨拶を交わすなど、制約のある中でも交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為オレンジカフェが休止になり現在は地域に向けて認知症の理解や支援方法など発信する場がなく活かすことはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在対面での会議は行っておらず書面送付でのやり取りとなっている。その中でサービス状況を報告し質疑等を返送してもらっているもサービスに関する意見は出ていない状態。	感染防止のため開催は困難なので、事業所と利用者の状況を書面にし、質問や意見を聴くためのアンケートと共にメンバーに送付することで代替され、得られた情報は日々の事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の町担当者以外にも生活保護担当や後見担当などその人に合ったサービスを実施できるよう協力関係は出来ている。	報告や相談が町の関連各担当課と適切に行われ、感染防止に関する情報や手袋の購入情報等も受けており、協力関係が構築されているが、感染防止のため利用者が行けるような社会資源を見つけることは出来ていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し事業所の指針を定め年2回の研修や職員アンケートを実施するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が3カ月に1回開催され、事業所内研修と共に身体拘束に関する職員アンケートが年1回行われ、慣れからくることを見直すと共に意識の向上を図り、身体拘束の無い支援に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の指針を定めている。研修やアンケートの実施を行い虐待防止に努めている。また痣や傷があれば写真や記録に残し原因を可能な限り探り予兆を見過ごすことがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度について学ぶ機会はないが現在利用者の方に後見人が必要となり申請を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ十分に理解・納得いただけたよう丁寧に行っている。契約前の見学や実調の際にも疑問や不安な点がないか聞き取りを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に定期的(年一回)にアンケートを実施し結果を施設内に掲示している。また利用者ごとに担当をつけ相談や要望を言いやすい環境を作っている。	利用者に関わる中での話は全て情報と捉え、家族とは、面会が制限され、物の受け渡しは玄関でとなる中、事業所独自の家族アンケートが実施され、汲み取られた意見や要望は日々の支援に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見や提案を聞いている。またなるべく全職員から意見を取れるよう会議前に事前アンケートを実施し会議時には多くの意見を集められるようにしている。	月1回の職員会議は社長も出席され、各職員は事前にアンケートを提出し、意見を整理して会議に臨むことで話し易くなっている。個人面談は個人の目標を設定して行われ、モチベーションやスキルの向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験や実績を踏まえ昇進の提案をし実際に提案が通るなど職員の向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修機会はとれていないが法人内外の研修を受ける機会は設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会もなく取り組みは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人、家族様から要望等を聞き取り、入所後もアセスメントを取っていき職員間で共有しご本人が生活しやすい環境を作りながら信頼関係も構築していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から入所まで以前の介護サービス利用の有無に関わらず不安な点は少なからずあると思って丁寧に聞き取りを行い不安、要望を話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様の意向を踏まえ、入所前の情報とアセスメントを重ね、ケアマネジャー、職員で話し合い、必要とする支援計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性を活かし、本人のできる事を見極め、支援をしながら一緒に活動をして生活を送ることで関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、家族様との外出は制限をしているが、受診等の必要な外出の際は協力をして頂けるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会は制限しているが、手紙や電話にて本人との関係を繋げられるようにしている。面会制限の中でもZOOMを使ったオンライン面会の案内を行ったが活かしきれていない。	来訪は制限されているが、降りないドライブで馴染みの場所を尋ねたり、手紙や電話でのやりとりが支援され、関係継続に繋がられている。また、事業所の便りに変えてSNSで利用者の様子などを発信することが検討されている。	コロナ禍でも馴染みの関係の継続のために種々の支援がなされています。より利用者の生活状況が伝わるような情報の発信・伝達方法が期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動を一緒に行ったり、共通の話題を提供し、利用者同士の関わりを深め、共同生活を円滑に送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後他施設へ移った際必要に応じて情報提供など支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と会話をする事が多く、日常の会話の中から汲み取る事も出来ている。聞き取りが困難な方は言動、仕草を観察しご本人の意向を少しでも多く汲み取れるようにしている。	利用者1人ひとりの話をよく聴くと共に、表情や反応などを観察し、その背景にあるものを汲み取るようにされている。また「スタッフ介護記録」の状況を共有することで、職員全員の利用者理解の向上が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、家族様よりこれまでの生活歴を聞き取りしている。また病院、他サービスからの入所に関しても各関係者より生活状況の聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を観察し、個別に記録を残すとともに申し送りにて職員間での情報共有を行い、現状の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様の意向を踏まえてケアマネージャー、職員でケア会議を行っている。また、事前に全職員にモニタリング結果を提出してもらい、会議にて意見の検討を行っている。必要に応じ、医師等の専門職の意見も取り入れている。	管理者の意見も記入された「スタッフ介護記録」を基にケアマネージャーと職員によるケア会議が行われ、利用者・家族の意向や医師・看護師の意見も得、出席できない職員の情報も共有し、現場と乖離の無い介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録を作成し、日々の様子、ケアの実践状況、気づきを記入している。口頭で申し送りもしており職員間で利用者の状態を共有し、実践や会議での介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により買いものの同行や代行、ご家族に代わり受診の代行も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが、コロナ禍の為事業所方針として制限をしてしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人と家族様に説明をして確認している。往診医とは別にかかりつけの専門医へ受診される方もおり、その際は職員の同行、または施設での様子、経過を記入した書面を渡しスムーズな情報伝達を出来るよう支援している。	往診対応の医療機関が従来からのかかりつけ医かの選択をいただいているが、コロナ禍で家族と会うことが制限される中、職員中心に受診対応がなされ、医師一家族間の情報伝達を支えることで適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回のペースで訪問しその際相談等を行っている。また24時間電話対応していただき急変時には対応の指示を得ている。必要に応じて往診医にも繋いでもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には地域専用の連携シートを活用しスムーズに入退院できるようにしている。可能な場合訪問看護に同行してもらい往診医、病院関係者との情報共有をスムーズに行えるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り重度化に関する方針を伝えている。ご本人の状態によりご家族、医師、事業所間で面談を行う機会を作り方針を決定している。	入居時に利用者や家族に対して、重度化した場合に事業所で出来ることの説明がなされ、重度化の場合は、家族の希望や医師の意見も参考に、看取りを含めた適切な選択をいただける体制が作られており、訪問看護師の協力を得て、職員研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応に関する社内研修を行っている。また実際に起こったケースについて会議等で話し合いを行い、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定、年1回の水害想定の実地訓練を行っている。避難誘導訓練時に実際に避難場所まで行くなど実践的に取り組んでいる。地域との協力体制は築けていない。	年2回の火災想定、年1回の水害想定の実地訓練が行われているが、土砂災害警戒区域であるため、同一町内で同一法人の別のグループホームへ実際に避難し、時間測定も行われるなど、実践的な訓練を積み重ねられている。	火災と水害それぞれの訓練が行われ実践的な内容です。災害時は予期せぬことも生じます。迅速な行動が取れるように、種々の想定での訓練継続が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な対応、声掛けをするよう周知しているも出来ない職員もいる。虐待防止の観点からもスタッフ会議で議題に取り上げたり研修やアンケートを取り改善に努めている。	利用者は、1人ひとり過去の生活環境が異なるので、個人の情報や知られたいことには言葉使いを含め注意が払われ、研修や職員アンケートを行うことで意識の向上を図り、各人の尊厳とプライバシーが尊重された支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを伝える事が出来る方は会話の中で聞き取るようにしている。難しい方には選択肢を設けてなるべく自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが崩れない範囲で希望に添えるように支援している。その日の体調や天気など考慮し散歩などを提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望のできる利用者の方は眉毛を整えたりしている。女性職員によってマニキュアを施すなどおしゃれができるように支援している。その日着る服も選ぶのが難しい方は二つ用意し選んでいただくなど支援出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人ができる事を見極め料理ができる方は職員と一緒に作ったり、盛り付けを行っていただいたりしている。また行事食やおやつ作りを一緒に行うなど食事を楽しめるよう変化をつけている。	食材業者からの材料とレシピに基づき、利用者の手伝いも得て職員が交代で調理し、バランスが取れた食事が提供されている。外食が制限される中、行事食やおやつ作り、テイクアウトの利用等で変化と楽しみを持たせられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないように外部の業者に食事メニューや食材を手配している。またご本人の状態に合わせ粥や刻み食、ペースト食にするなど支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人に合った口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科医による往診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導や様子観察からの声掛けによる誘導を行い排泄パターンを把握している。新規利用者の状態を把握し可能な方はリハビリパンツをやめ布パンツに変更するなど自立に向けた支援を行っている。	自分で排泄する意識と自尊心に配慮した声掛けや誘導を行うことでトイレ排泄を原則とされ、夜間はオムツ利用の方が日中はリハビリパンツへ、リハビリパンツの方は布パンツへと改善された事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員が便秘の原因、影響を周知しており予防に努めている。便秘がひどい方は医師、訪問看護に報告し、服薬でコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本曜日や時間帯は職員都合となっておりまっているが出来る限り本人が望めば曜日関係なく入浴できるようにしている。また最初に入る方には入浴剤を選んでもらい楽しみを持てるようにしている。	週2回を原則としつつも、利用者の状況や希望により、融通を効かせた入浴を楽しんでいただいている。また、拒否者には無理強いすることなく、タイミングを変えたり、人や話し方を変えるなどの工夫が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその時の状況に応じて休息が取れるよう努めている。安心して眠れるよう居室内や寝具など環境整備にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬管理表を作り副作用や用法、用量について理解し症状の変化があればケース記録や業務日誌に記録し医療職へ相談報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の情報や日々のアセスメントを参考にし、各々が生活の中で活かせるような環境を作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもありここ1-2年あまり外出の支援は出来ていない。個別で散歩やドライブにお誘いするのみとなっている。	感染防止のため、外出が多いのが特徴の事業所であったが、コロナ禍で制限される中、気候が許す限り、近隣の散歩や外気浴・日光浴が行われ、自然環境に恵まれた地の利を活かして、降りないドライブなどが行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方に限るがお金を所持し買い物の希望があれば同行するなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯にもよるがご本人のしたいときに電話が出来るようにしている。またご家族との手紙のやり取りもご本人が忘れてしまっている場合返事を書くよう提案し途切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは落ち着いた色合いを取り入れ、季節感のある装飾を取り入れている。快適に過ごせるように温度/湿度計を設置。トイレ、浴室は寒暖差の無いように配慮している。	緑溢れる静かな環境の中で、季節感のある作品が飾られ、相性を考慮したテーブルの配置やソファなどが置かれた共用空間は、採光や室温にも注意が払われ、家庭的で利用者一人ひとりが思いおもいやすい場所で、思いおもいに過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内は一人ひとりの状態、利用者同士の関係性を職員間で話し合い家具を設置している。ソファや自席にて気の合う利用者同士と一緒に過ごすことが出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には居室には本人の使い慣れたものや好きなものを用意してもらっている。またそれがある事によって不穏や危険を伴う場合にはご家族と相談し部屋をシンプルにし安全に配慮するなど工夫している。	折り紙による表札が付けられた居室は、使い慣れた家具や日用品、大切なもの等が持ち込まれ、各人のペースで寛いでいただける部屋となっている。高齢化に伴い、安全面からの導線の確保や和床の対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりも生活動線についており安全かつ自立した生活が送れるようになっている。各場所と居室に表記をして場所を認識できるように配慮している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	新型コロナのため面会制限を行い、代替策としてオンライン面会を試みたが、利用したのが二家族のみと定着せず、様子が伝わりにくい状態。コロナが落ち着いた後も、気軽に面会ができる一つの手段としてオンライン面会の継続やSNSを通じた発信を探りたい。	ご家族が手軽にオンライン面会を行える。SNSを活用し施設での情報を発信する。	オンライン面会のやり方を全スタッフがスムーズに行えるよう研修を実施する。ひと家族ごとにオンラインでの面会を一度は行ってみる。社内の会議を通じてSNSの活用を探っていく。	12ヶ月
2	35	火災、水害、地震等災害に対するリスクが高まっている。訓練を行っているも有事に際し、どれだけ有効か分からない。スタッフの入れ替わり等もあり、対応方法の伝達も定期的な訓練の他にも行っていかないとならない。	全スタッフが災害時にスムーズに対応ができる。	施設全体の訓練の他、入社年数に合わせた個別研修を実施する。訓練では、リアリティーを持たせた想定を行い、より実践的な訓練を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。